

タブレット端末で 登下校時の荷物の軽量化を



中嶋 通治

問 小中学生の登下校時の荷物が重い。専門医からも特に、低学年に関しては荷物の重さが子どもの健康を損なうとある。文部科学省による通知「児童生徒の携行品に係る配慮について」当市ではどのような取り組みをしているのか。

答 置き勉を実施してきた。具体的に「家庭学習で使用しない教科書、ノート等を置いて帰る」「書写セットでは、筆だけ持ち帰る」「週末や学期末は、一度に持ち帰る事が無いよう計画的に持ち帰る」等学校として統一して実施している。持ち帰りのさらなる見直しや、AIドリル等を活用した紙ドリル等に代わる課題の出し方などの研究を進め、引き続き登下校時の負担軽減に努める。

◆職員の名札は名字だけの表記に

問 インターネット等で名札などから姓名が公開されるなど、個人のプライバシーが侵害される懸念がある。名札をフルネームの表記から名字のみの平仮名にするのはいかがか。

答 市民への伝わりやすさを考慮し、表記の方法を変更する。

「治水対策」への 取り組みを全力で！



稲垣 茂行

問 安全・安心のまちづくりの前提は、治水対策。吉川駅北口「第一排水区」は、木売落しを2層構造化して貯留する計画から、共保ポンプ場の能力を30%アップして中川に放流する計画に変更されたが進捗は。また、南中学校周辺地区の「上第2大場川」整備状況は。

答 江戸川河川事務所と放水量増加について協議し、関連する協議を東京電力、県とも行っている。上第2大場川整備は、計画延長660mに対して3月末で275mが完了。進捗率は約42%。

問 都市化が始まった昭和40年代まで、雨水の受け皿は「田んぼ」。吉川市の地理的特性や近年のゲリラ豪雨の発生状況からみると、河川への放流のみに頼るのは危険。治水対策の基本は調整池・調節池の設置と考えるが。

答 調整池・調節池の設置は、効果的であると認識している。しかし、池の整備とともに導水管路整備など、技術的な課題がある。

市長 木売落し2層構造化は、市長になったときすでに計画されていた。再度、代案も検討・精査したが中川への放流が現実的で、国の資金を活用できることから決定した。

答えて市長！ 一般質問

今回の定例会では、9月20日(水)、21日(木)、22日(金)の3日間にわたり18名の議員が市政全般について、市の見解をたできました。主な内容を質問者が要約してお知らせします。詳細は会議録をご覧ください。

会議録は、ホームページや市立図書館で閲覧できますが、今回の定例会の会議録の提供は、12月上旬となる予定です。



浸水・冠水対策に調節池を 課題多く情報集め調査研究



降旗 聡

問 6月、台風2号の影響に伴う大雨で市内各地で浸水被害が発生した。吉川駅北口周辺地域と南中学校周辺地区は、昭和40、50年代からの開発により住宅建設が進む一方で、治水事業が十分でなかった。

治水対策として調節池（中央公民館南側などへ）が必要だと考えるが、市の考えについて。

答 雨水を一時的に貯留する調整池と、河川の水位上昇を抑制する調節池は、治水対策に効果的であると認識している。しかし、区域内で降った雨は区域内で溜める原則や、池の整備と共に導水管路の整備が必要になるなど、技術的なことを含めて多くの課題がある。

今後は、近隣自治体や中川・綾瀬川流域治水協議会から、先進事例の情報収集を行う中で調査研究していく。

問 国は、浸水被害軽減に向けた地下空間活用について、勉強会を発足した。国の動向を注視して何ができるか検討してもらいたい。

答 排水区の見直しや集積面積、貯留量のバランス、施工方法、住宅街における工事であることなど、慎重に研究しなければならない。